



「決戦の刻」を手にする生徒らと白井校長(左)、隣の加藤会長と会員ら(新城市立東郷中学校で)

新城市の東郷ブランド米事業検討会 受験生へ「決戦の刻」贈る

新城市東郷地区の東郷ブランド米事業検討会(加藤稜唯会長)が29日、新ブランド米「決戦の刻(とき)」を地元東郷中学校の受験生(3年生86人)にプレゼントした。

この日の全校朝礼で、加藤会長が「地元の設定原決戦場で生産した米。鳳来山東照宮で祈とうしてもらった。受験前に食べて頑張って下さ

い」と激励した後、受験生を代表して岡田陸隼さんら3人に「決戦の刻」(金色キヌーブタイプで、360ミリの入り真空パック)86人分を手渡した。

参加したうちの竹森あゆみさんと浅井依音さんは「初めての米を知った。名前もよく、利便がありそうと喜んだ。前次締進さんもいいことがありそうとうれしそうに話した。

白井和典校長は「来週は公立高校の入試。いいタイミングでいただいた。地

域のお米でネーミングも親近感がある」と述べた。

加藤会長は「プレゼントは今後も継続したい」といい、「認知度向上に努めるとともに、課題に向き合いながらまちづくりに貢献していきたい」と語った。

検討会は、耕作放棄地の削減や米農家後継不足解消などを目的に決戦場跡地で生産された米のブランド化に取り組み、昨年11月から収穫した「決戦の刻」の販売を始めている。

(夏目聡)